

# 病院再建

pg1: 被災後～再建過程

2008年5月に発生した中国大地震から2年を過ぎた今、各地で再建されている医療施設も次々と完成し始め、これまで大変厳しい環境で過ごして来た患者さん達も、ようやく地元で安心して医療サービスを受けられるようになってきました。

病院が再建されるまでの間、患者さんや病院職員は夏場は大変暑くなる仮設のプレハブ施設や、損壊した危険な建物などで過ごしてきており、新しい医療施設を待ち望む声が多数聞かれていました。被災から今日までの医療施設と患者さんの様子をお伝えします。 ©日本赤十字社



仮設プレハブ診療所(甘肅省隴南市徽県)



ベッドを共有する入院患者(甘肅省天水市清水県)



地域の中核病院の仮設プレハブ入院棟。病院は被災後3度も引越しをしながら診療を継続(四川省綿陽市游仙区)



施設が一部損壊したため待合室が確保できず、屋外で診療を待つ患者さん(陝西省漢中市城固県)



建設中の日赤支援病院(陝西省漢中市城固県)

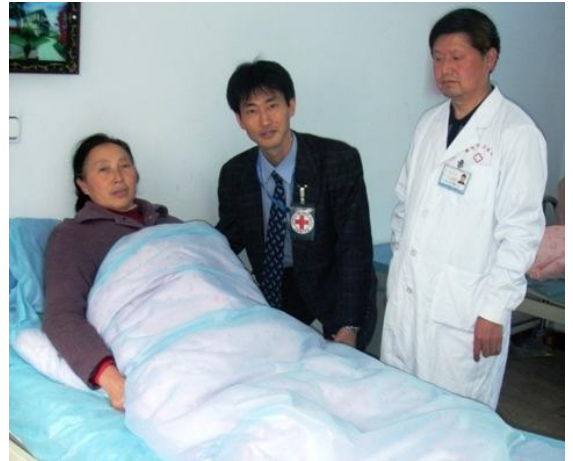
# 病院再建

## pg2: 再建された医療施設

日本赤十字社は皆様からの救援金をもとに、被災した3省(四川省、甘肅省、陝西省)において39ヶ所の病院と54ヶ所のクリニックの再建を支援しています。病院は2009年春以降順次完成し始めており、2010年中にはほとんどの施設が完成し、患者さんが安心できる医療を提供できる予定です。 ©日本赤十字社



09年春、日赤の支援で完成した病院第1号(陝西省漢中市城固県・宝山鎮衛生院)



「入院施設が完成し、家族の近くで療養できるようになり嬉しい」と楊さん(陝西省漢中市城固県・盤龍郷衛生院)



10年1月完成。施設が充実し、ナースコールもついた。「これで呼び出しは増え、仕事は厳しくなりますが、それによって患者さんのケア・手当てが速やかにできるので、大変助かります」と看護部長さん(陝西省安康市漢陰県)



10年5月、日赤の支援の中で最大規模の30万人の人口を対象とする病院が完成。被災後病院が3度もテントやプレハブに引越す中、患者さんを支え続けてきた病院職員にも笑顔がこぼれる(四川省綿陽市游仙区)